

2024年 4月 浜松聖書集会のご案内

(時間 : 午前10時 ~ 正午)

○4月 7日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会 : 大手 美千代 感話 : 岩田 堯

聖書講話 : ミカ書講話第1回 ミカ書1章1節

「ミカ書を学ぶにあたって」

水戸 潔

○4月14日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会 : 永井 徹

聖書講話 : エズラ記 7章、8章15~36節

「果たすべき使命をまっとうした人」

笹井 あかね

○4月28日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会 : 武井 陽一

聖書講話 : マタイによる福音書 2章16節

「この世的精神に抗して」

内坂 晃

集会後、昼食の弁当を頂き、内坂晃・弘子夫妻と交流の時をもちます。

希望者は 武井めぐみ まで申し込みください。

「闇の勢力に抗して」

内坂 晃

仏陀 (ゴータマ・シッタルダ) はBC560年頃生まれ、BC480年頃、500人の比丘 (びく) たちに見守られ、45年間の布教活動のまま入寂 (にゆうじゃく) されたと言われています。ムハンマドはAD570年頃生まれ、40歳で啓示を受け、AD632年6月8日に死んだとされています。イエスはAD28~29年頃ヨハネから洗礼を受け、AD30年、十字架刑に処せられて死んだとされ (ダーフィット フルッサー『ユダヤ人イエス』)、月本昭男先生によると、イエスはガリラヤでも大きな町にではなく、小さな町や村を巡って伝道活動をされたようです。

だとすれば、そんなイエスが歴史に名を残すことなどありえなかったと言わねばなりません。一体、何がイエスを歴史に名を残す存在にしたのでしょうか。イエスの死は人々の罪の贖いの死であったとか、イエスは神の一人子であったとか、昇天されたとか、それらはみな後に弟子たちが言い出したことで、最初のそれらの出発点になったのは、あの悲惨な死からの復活の告知でありました。弟子たちは何よりも復活の主の証人として立ったのでした。それはこの世の悲惨、死、それらが最後のものでも絶対のものでもないというメッセージです。このメッセージを信じ受けることを通して、目を覆わんばかりのこの世の悲惨、無辜の民の死、巨大な悪の勢力の横行、それらに、たとえ微力でも抗して歩む日々であらしめ給えと祈ります。

(「キ政連」490号 2024年1・2月)